



山梨県立わかば支援学校

令和7年度 第1回学校運営協議会 協議結果等について

日時：令和7年6月23日（月） 13：30～15：00

場所：本校 視聴覚室

・会に先立って、山梨県教育委員会による、学校運営協議会設置通知書交付式及び学校運営協議会委員委嘱交付式を実施。

次 第

- 1 開会のことば
- 2 校長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 運営等に関する要綱について
- 5 会長・副会長選出（互選）
- 6 会長あいさつ
- 7 議事＜議長：会長＞
 - （1）令和7年度教育目標・学校運営の基本方針
及び職場環境づくりマネジメントプランについて （校長）
 - （2）学校概要について （副校長・教務主任）
 - （3）令和6年度学校評価報告・令和7年度学校評価計画について（副校長・教頭）
 - （4）その他
- 8 連絡・報告
 - （1）今後の予定
第2回学校運営協議会 令和7年10月27日（月）13：30～ 分校
第3回学校運営協議会 令和8年 2月16日（月）13：30～ 本校
 - （2）その他
- 9 閉会のことば

＜会長・副会長選出について＞

・互選の結果、会長として柳澤委員、副会長として長倉委員を選出し、委員の承認を得た。

＜議事＞

- （1）令和7年度教育目標・学校運営の基本方針及び職場環境づくりマネジメントプランについて
 - 学校より説明 → 承認
 - 質問及び意見
 - ・「たくましい力、ゆたかな心」に「知識・技能」の内容を盛り込むことを検討するという話があった。この学校目標は、自分や他者を愛せるような心豊かな人になってほしいということを願って作られたものだと思っている。そのために、基本方針や学部目標の中に学習に関することが盛り込まれていることから、「知識・技能」の内容が入っていないということではないと思う。そういった背景も踏まえ、今後検討をしてほしいと思う。

(2) 学校概要について

- 学校よりスライドを用いて説明 → 承認
- 質問及び意見
- ・特になし

(3) 令和6年度学校評価報告・令和7年度学校評価計画について（副校長・教頭）

- 学校より説明 → 承認
- 質問及び意見
- ・自己評価及び、学校関係者評価とは誰を対象に、どのように行われたのか。またその平均点が記載されているという確認でよいのか。
 - 自己評価は教職員の評価によるものである。学校関係者評価は昨年度の学校評議委員の方になるので、人数は4名である。評価の期日は令和7年2月17日である。
 - 分校も同様で、本校の学校評議委員の方から昨年度は評価していただいた。
- ・昨年度は学校評議委員が4名ということだが、どのような方が委員であったのか。
 - 学識経験者1名、地域の方（進路関係の方1名を含む）2名、PTAより1名である。

(4) その他（各委員より感想等）

- ・地域の文化祭・敬老会を実施する。文化祭で毎年わかば支援学校の皆さんの作品についても展示しているので、また今年もお願いしたい。
- ・わかば支援学校には始めて入ったが、施設の充実を感じた。同時に、この広い敷地を管理することの大変さを感じた。また、多種多様な児童生徒に細かい支援をすることについても大変さを感じるとともに、実際の授業はどのような様子なのか関心を持った。
- ・本協議会において、具体的に何をするのかということが見えてくるようにしていただきたいと考えている。
- ・分校は中学部までしかないが、児童生徒の将来まで考えて支援していくことの大変さを感じた。保護者も将来を想像するのが難しい面もあると思うので、今後も相談していただけるような努力をしていただきたいと思います。
- ・卒業後にもきめ細やかで、手厚い支援があることが素晴らしく、ありがたく思っている。気候変動がある中で、分校の立地は災害の際に心配がある。そういった点は簡単ではないが、将来的に整備していただけるとありがたい。
- ・福祉の分野についても、今年度から地域連携推進委員会の設置が義務付けられ、教育現場と同じように、地域に開いていくという視点が重要視されている。当施設でも職員の働く環境づくりについて、主体性を重視して取り組んでいるところ。わかば支援学校における職場環境づくりがこれからどのように進んでいくのかについて参考にさせてほしい。今後の協議会の中でも共有ができればと思う。
- ・非常に多くの児童生徒がいる中、きめの細かい支援については大変さを感じた。トップダウンではなく、ワークショップにより先生方から意見を挙げていくなかで、やりがいをもてる職場環境が実現できると良いと感じた。
- ・本日の学校見学を通じて現場の様子を知り、抱えている課題についても知ることができた。2回目以降の協議会では、そのような点についても分かった上で、改善について考えていけたらと思う。
- ・障害者の就労支援という立場で見させていただく中で、今年度の10月から就労選択支援という新しいサービスが始まる。わかば支援学校を卒業する生徒にもかかわってくるため、峡北地域の自立支援協議会において、わかば支援学校の進路指導部にもワーキングに参画していただき、進めているところである。学校は、対象となる地域を全て見ていかなければならないという点で労力がかかると思うので、協力できるところはしっかりと協力していきたい。
- ・個々に応じた熱心な教育や学習の準備が特別支援学校には大切だと思っている。個々の先生方の努力が根強くありながら教育が進められていると推測している。働き方改革がある中で総合的に考えていくという点で大変な苦労があるかと思うが、自己肯定感をしっかりと持てるような子供たちへの教育を進めてほしいと思う。児童発達支援センターとして関わる機会があるが、ぜひ現場の先生方と話がしたいという思いがあるので、現場同士の連携や顔が見える関係づくりができればより良くなると思っている。

金丸校長より

- ・コロナを経て、関係者が顔を合わせる機会が増えてきた。コロナでなくなったもの

もあれば、新しく再構築していくものもあると思うので、より良いものを作っていたらと思うし、地域の方々との連携が大切になってくるため、様々な面で支えていただけたらと思う。

<連絡・報告>

(1) 今後の予定

第2回学校運営協議会 令和7年10月27日(月) 14:00～ 分校

(2) その他

・特になし